

# 地域との共生

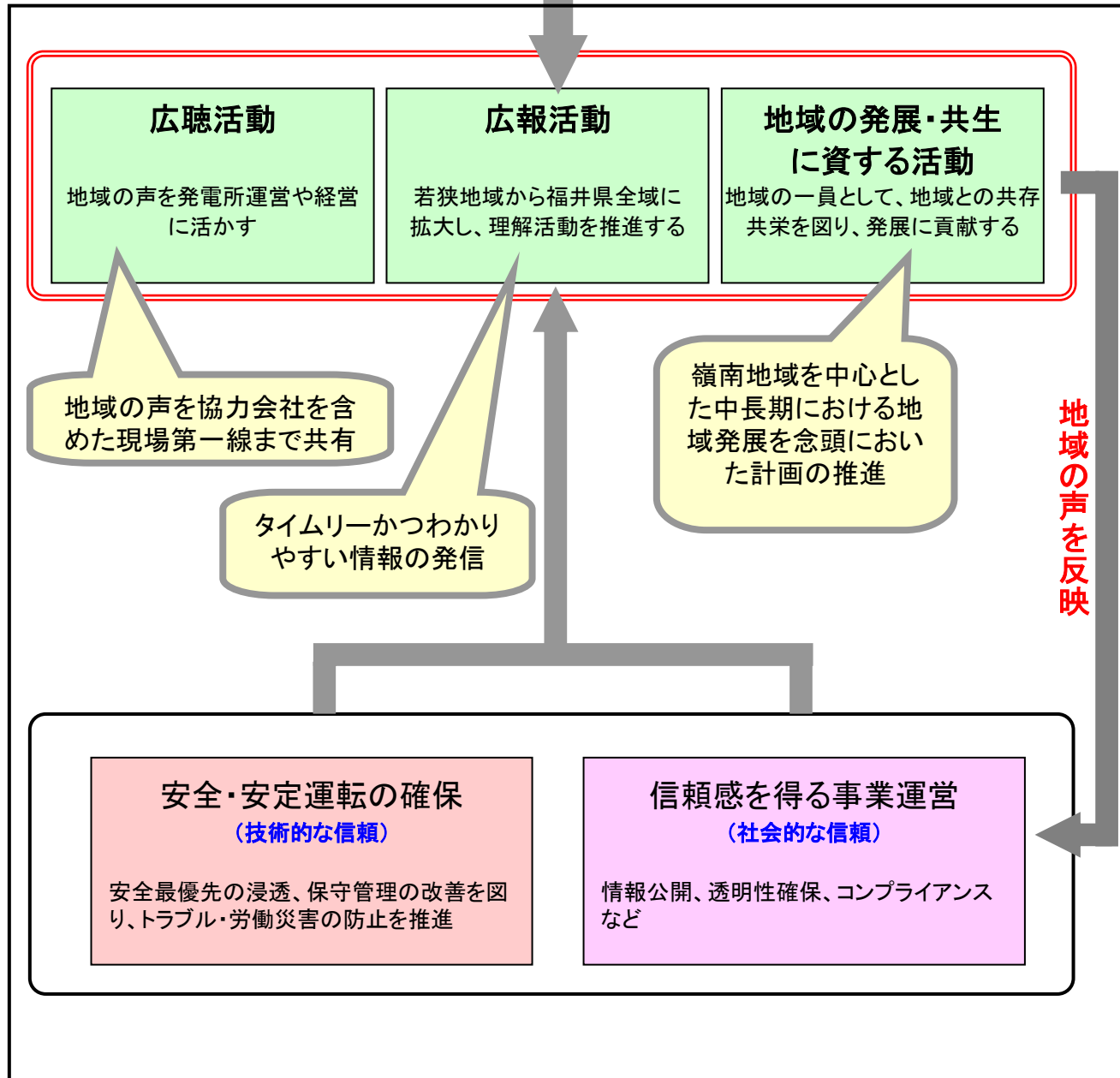
平成20年5月16日

関西電力株式会社

## 地域共生活動の基本的な考え方

地域の一員として地域と共に発展することを目指し、地域の皆さまの思いをしっかりと汲み取り、発電所運営や地域共生活動に活かすと共に、地域の期待に応えることにより地域からの信頼を築き上げる。

## 地域の方々の原子力運営に対する信頼



## これまでの取組みの評価

|                |  |
|----------------|--|
| 広聴活動           | 経営層と地域の方々との原子力懇談会、各戸訪問など地域とのコミュニケーションが充実し、いただいた声を社内で共有する仕組みが整備された。 |
| 広報活動           | 嶺南地域のみ配布していた広報誌を全県へ配布拡大し、地域の方々とのコミュニケーションが充実した。                    |
| 地域の発展・共生に資する活動 | 「拠点化推進方針」に基づき、福井県と協議しながら、対応できるものから具体的に取組みを進めた。                     |

## 平成19年度の取組みのポイント

|         |  |   |
|---------|--|---|
| 広聴      | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の声に対する対応の継続</li> <li>地域の声を現場第一線と共有する活動を充実</li> </ul>                      | 2 |
| 広報      | <ul style="list-style-type: none"> <li>プルサーマル、耐震、高経年化など、地域の関心が高いテーマについて、タイムリーでわかりやすい情報発信を推進</li> </ul>             | 3 |
| 地域発展・共生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>嶺南地域の発展を念頭に置いた拠点化計画の推進と、当社の取組みについての広報</li> <li>福井の情報を関西圏を中心に情報発信</li> </ul> | 4 |

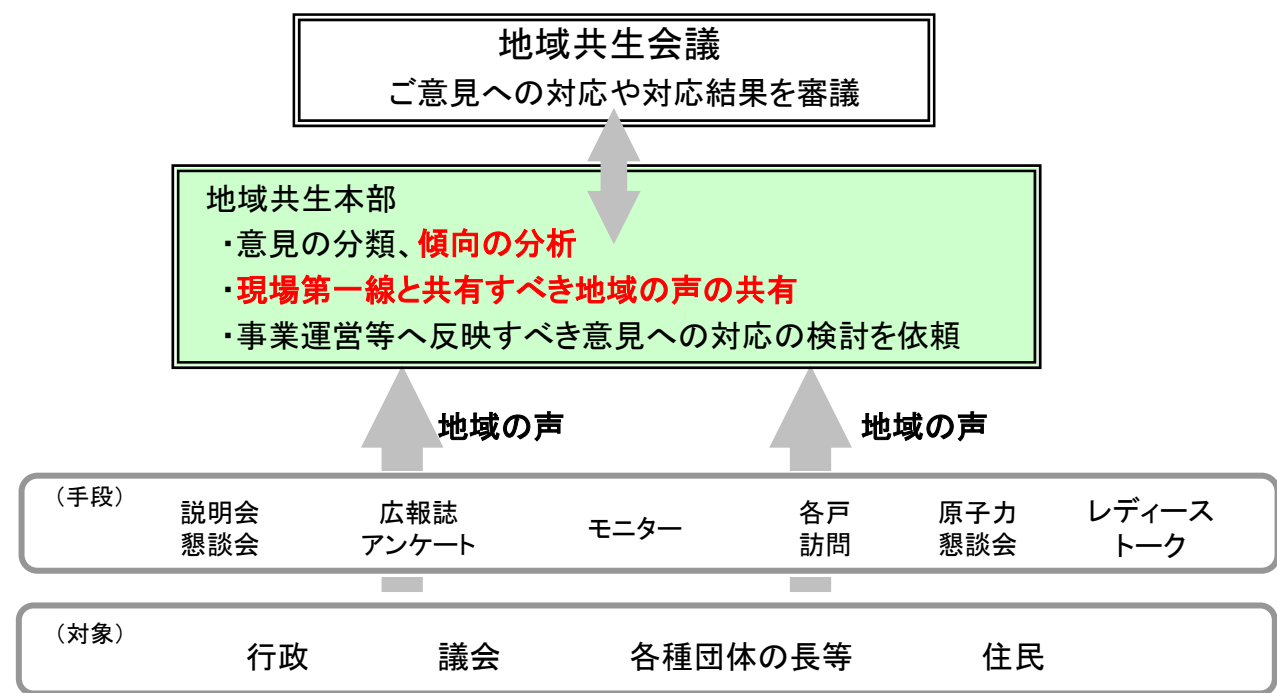
## 最近の動き

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| プルサーマル | 進捗状況を情報発信する必要あり           |
| 耐震     | 中越沖地震を受けて、発電所の耐震対策への不安が増大 |
| 高経年化   | 高経年化プラントを不安視する傾向          |
| トラブル   | 昨夏以降頻発するトラブルに対して厳しい意見     |

## 概要

- ◆地域の声を事業運営に的確に活かすとともに地域の方々へフィードバックする。
- ◆地域の声を協力会社を含めた現場第一線まで共有し、一人一人が地域の方々の思いを受け止め、事業運営にあたる。

## 地域の声を事業運営へ活かす仕組みの強化



## 現場第一線との地域の声の共有

- 職場懇談会や安全衛生協議会等の場で社内・協力会社と地域の声を共有
- 協力会社も対象に新たに発刊した社内報「わかさ」に地域の声を掲載

→ 日常業務運営を行っていく中での意識改革につながっている

## 現場第一線と共有した地域の声

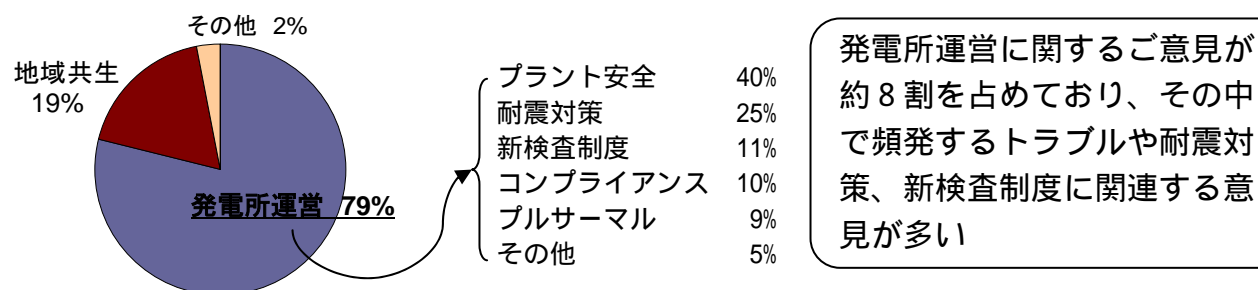
「人なのでミスをするのは仕方ないが、何回も同じことを繰り返すと、地元の信頼を失うよ」  
 「たとえ年間目標値の200万分の1以下と微量でも、世間は漏れたことが問題。」  
 「安全最優先の姿勢が見えて頼もしく思った。今後もその姿勢を崩さず、地元で信頼されることが原子力の信頼に繋がると思う」

## 社員の受け止め

「2度と同じミスを繰り返さないようにしないと本当に信頼されなくなると感じた」  
 「技術者からの目ではなく一般の方からの声や世間の意見だと感じるべきだと思う」  
 「励ましやお褒めの言葉をいただくとやりがいにつながる。もっとお褒めの言葉をいただけるように頑張りたい」

## 地域の方々からのご意見

<地域の方々から頂いたご意見の傾向(平成19年度)>



<頂いたご意見例>

- 【再発防止対策】「関電が一体となって取り組んでいる。今後もしっかりと対応を」
- 【耐震】「中越沖地震を踏まえ、住民が不安に思っているの、安心を与えてほしい」
- 【トラブル関係】「当たり前のこと、基本的なことができていない。何回同じことを繰り返すのか」
- 【プルサーマル】「新しいやり方なので、詳しく細かく進捗具合を知らせてほしい」

## 現状の評価と今後の対応

【現状の評価】

- 再発防止対策の取組みは一定の評価をいただいているが、トラブル防止の取組みが不十分であるとの指摘や耐震対策や高経年化プラントに対する不安の声がある。
- 地域の声を共有することで、仕事を地域の視点に立って見つめ直す契機となっている。
- 女性層へのアプローチなど、層別も意識したよりきめ細かい活動を進めていく必要がある。

【今後の対応】

- 地域の方々の思いを把握し、疑問や不安に応える情報発信を行っていく。
- 引き続き、地域の声を現場第一線と共有し、一人一人が地域の方々の思いを受け止めた事業運営を行えるような環境整備を進めていく。

## レディーストークなど女性層との対話活動(美浜町)

・女性層の声を聞き取るための小グループごとの対話を草の根的に実施中

【レディーストークでのご意見例】

「レディーストークの様な少人数の会合であれば、素朴な疑問も聞きやすい。今まで不安に思っていたことが今回の会合で解消した。」  
 「電気は必需品であり、電気のない生活は考えられないので、とにかくトラブルを起こさないようにしてもらいたい。」



## 概要

◆原子力発電に対する地域の皆さまの安心感の向上に向けて、プルサーマル、耐震、高経年化など地域の関心が高いテーマについてタイムリーかつわかりやすく情報を発信する。

## タイムリーでわかりやすい情報発信

### 現状ツールの問題点

- ・広報誌「越前若狭のふれあい」  
(福井県全域へ新聞折込) → 隔月発行のため、タイムリーな記事掲載が困難
- ・CATV  
:レギュラー番組10分間の「原子力豆知識」コーナー(2分間)で情報発信 → 番組入替が1ヶ月単位で、発信時間も短く、適切でタイムリーな発信が困難

## タイムリーかつわかりやすい情報発信の充実

- 新潟県中越沖地震(H19.7.16)を受け「越前若狭のふれあい」特別号の発行
  - ・「原子力発電所の地震対策」(H19.8.12)
  - ・「耐震安全性に対する概略影響評価結果」(H19.10.21)
- 「越前若狭のふれあい」でプルサーマルや高経年化対策、放射線の特集記事を掲載
- CATV特別番組の放映
  - ・当社発電所における耐震概略影響評価 (H19.9.26～10.10)  
:事業本部副本部長による解説(10分間)
  - ・高経年化対策 (H19.9.27～10.14)  
:タレントを起用し、高経年化対策をわかりやすく解説(15分間)
  - ・プルサーマル計画(事前監査結果) (H20.3.18～3.24)  
:燃料技術グループマネージャーによる解説特別番組(9分間)



## 地域の皆さまの受け止め

- 越前若狭のふれあい読者アンケート  
(耐震記事に対するご意見)
  - ・地域住民も不安に思っている案件であり、スピーディーな発刊は良い。
  - ・県民の理解を得るためには様々な形での情報周知が大切。
- (プルサーマル記事に対するご意見)
  - ・図解、必要性ともわかりやすくエネルギーリサイクルの必要性を痛感
  - ・MOX燃料の品質の厳しいチェックの事がよくわかり安心した
- (高経年化対策の記事:H19.8.26発行)
  - 知りたい内容であった ⇒ 81% わかりやすかった ⇒ 80%
- (放射線特集記事:H19.10.28発行)
  - 知りたい内容であった ⇒ 86% わかりやすかった ⇒ 89%
- CATV特別番組の感想(「越前若狭のふれあいモニターより」)
  - ・地震について特別番組で詳しく説明する姿勢は良い。
  - ・一般の人には難しい用語が一部使われていた。

## 現状の評価と今後の対応

- 【現状の評価】
  - 地域の関心の高いテーマに対し、タイムリーな情報発信がされたという面で、概ね良好な評価を得ている。
  - 内容について「わかりやすい」との声が多い一方で、一部に「難しい」との声もあり、情報発信内容について更なる改善が必要。
  - 「越前若狭のふれあい嶺北モニター」の原子力に対する意識に関しては、嶺南地域の方々の意識に近付きつつある。(原子力安全システム研究所調べ)
- 【今後の対応】
  - プルサーマル、耐震、高経年化など地域の方々のご関心が高いものについて、地域の方々の不安や疑問に的確に応えるよう情報発信を継続する。
  - また、「越前若狭のふれあい」特別号の発行回数の増加等を通じて、引き続き、県内における原子力発電に対する意識ギャップを埋める取組みを継続する。

## 概要

◆嶺南地域の発展を念頭におき、エネルギー研究開発拠点化計画を推進するとともに、取組状況について情報発信を行い、地域の皆さまのご理解を得る。

## 主な取組状況

福井県をはじめ関係自治体や大学、病院など関係機関のご意見をお聞きしながら取組みを実施

### ○嶺南医療振興財団の設立

・医師確保支援制度の実施主体として設立(H19/3)

### ○嶺南地域の医師確保のための医学生奨学金制度の実施

・奨学生募集(H19/4)、奨学金を15名に給付(H19/5)

### ○研修医師確保支援制度の実施

・福井大学医学部および研修医受入れの嶺南の病院へ研修医師受入れ環境の充実・向上のための支援実施(H19/5)

### ○熱傷等の治療施設の整備

・公立小浜病院での整備に向け、具体的な規模や機能などについて公立小浜病院と協議検討を開始

### ○ブロードバンドを使ったエネルギー教育の実施

・H19/12高浜町に協力し、産産交流\*および産消交流のライブ配信授業を実施

\*電気の産地(高浜町)と産地(玄海町他)を結んだ交流授業(⇄電気の産地と消費地を結んだ交流授業)

### ○電子線照射施設の整備

・電子線照射事業を行う新会社「関西電子ビーム株式会社」を設立。美浜町が計画している産業団地を候補地として、電子線照射施設の建設を進める予定

## 取組状況に対する情報発信

### 大型案件を中心にプレス等を実施

- ・医学生奨学金貸与者募集開始プレス発表(H19/4)
- ・医学生奨学金貸与者募集結果プレス発表(H19/6)
- ・新聞広告掲載[医学生奨学金制度](H19/6)
- ・「越前若狭のふれあい(No.8)」に取組状況を掲載(H19/6)
- ・「関西電力CSRレポート2007」を発行(H19/8)
- ・「原子力eye」に取組状況を掲載(H19/10)
- ・拠点化推進会議後、電子線照射施設の概要等のプレス説明(H19/11)
- ・授業の様子が新聞、テレビで報道される(H19/12)



- ・「関西電子ビーム株式会社」設立プレス発表(H20/2)
- ・「電気新聞特集号」に拠点化計画特集を掲載(H20/3)

## 取組みに対する地域の声

「徐々に(計画全体の)成果が出始めている」(県知事)

「電力事業者は、電子線照射施設の整備にも着手された」(県知事)

「拠点化の取組みは今後も継続して掲載してほしい」(「越前若狭のふれあい」アンケート)

「拠点化計画はもっと地元に向けて欲しい」(町議会)

「医師不足の折、医師確保支援制度を創設されたことは大変良いこと」

(「越前若狭のふれあい」アンケート)

「関電の地域との共存共栄における奨学金制度は素晴らしい」(エネルギー懇話会)

## 現状の評価と今後の対応

### 【現状の評価】

- 医療確保支援制度等の取組みについて良好な評価を得ている。
- 拠点化計画の取組状況について、一部で「さらに知りたい」との声を頂いている。

### 【今後の対応】

- 引き続き、嶺南地域を中心とした地域発展を念頭に計画を推進していくとともに、当社の取組みが地域の方々に見えるよう、タイムリーに情報発信していく。